

富山第一高等学校 令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓の「剛健」「練体磨心」を基本理念に、知・徳・体、調和のとれた人材を育てる
(ア) 心身ともに強く健康で、学力・品格ともに備わった人材を育成する
(イ) 課外活動を含め学校生活を通じて社会性と豊かな人間性を育む
(ウ) 生徒個々の能力・適性に意を用いた指導を行い、目指す進路を実現する

2 学校の特徴

生徒数は1,200名を超える県下最大規模の全日制普通科高校である。1959年(昭和34年)に開校し、卒業生は3万5千名に迫り、各界各層で活躍している。「総合コース」「美術コース」「特別進学コース」「S特別進学コース」を設置し、生徒の適性と希望進路に応じた特色ある教育を行っており、多様な生徒のニーズに応えている。文武両道を標榜し、進学・部活動ともに実績を積み重ねている。

3 学校の現状と課題

近年9割を超える生徒が進学するが、自学自習への主体的な取り組みは十分とは言えない。学習習慣の定着と学力の一層の向上は継続した課題である。就職を目指す生徒は減りつつあるが、就職内定率は100%を維持している。

部活動に熱心に打ち込む生徒が多く、複数の運動部が例年全国大会に出場している。また、文化部も全国を舞台とする大会やコンクールで多くの生徒が入選・入賞しており、学校全体に活気がある。

生徒が学力、体力、道徳、社会性を身に付け、調和のとれた有為の人材として社会に貢献できるよう、生活指導を基本にきめ細かな指導を心掛けている。

社会の情報化が進む中、全校生徒が自身の端末を持ち、学校と家庭との連絡や、授業でのICT活用を進めているが、十分に活用できているとは言えず、教員のスキルの底上げと、生徒の活用習慣の定着に向けた努力が必要と考えている。

素直な生徒が多いが、自ら考え主体的に動けるとは言い難い。生徒の課題解決能力を育むため、探究活動の充実に取り組むとともに、生徒会活動の活性化を進め、主体的・協働的な生徒の育成を目指している。

4 学校教育計画(アクションプラン)

重点課題1 学習活動

目 標	①ICTを活用した授業および家庭学習の定着 ②本校の実態に即した評価方法の確立
現 状	①生徒が個人端末を利用するようになって6年目である。Google Classroomを活用した生徒への情報伝達や個人端末を使った授業

	展開は概ね定着してきたように思われる。しかし、家庭学習を促すための ICT 活用については教員間の差は大きい。 ②昨年度ですべての教員が新課程の授業及び評価方法を経験した。各教科内での評価方法の統一は概ねなされていると思われる。ただ、「主体的な学習に対する態度」の評価については、教員間の認識の統一が難しく、今後の課題となっている。
方 策	①今年度からスタディサプリが全学年利用可能となったことから、生徒への課題を動画配信で行うなど、ICT を積極的に活用した家庭学習の方法を取り入れていく。また、今年度もオンラインデーを実施し、ICT を利用した授業に教員も生徒も慣れていき、ICT スキルの維持・上達の機会を作る。 ②教員間の評価に対する認識のずれを解消するため、考査採点日等を利用し、授業担当者間で綿密な打ち合わせを行う。

重点課題2 探究活動

目 標	3 年間を見通した総合探究のカリキュラムを編成し、その実践を通して生徒の課題解決能力を育む
現 状	①2 学年における大学との連携活動においては、生徒の実態に合った探究活動になっていない可能性がある。 ②教員の探究活動指導力をいっそう向上させる必要がある。 ③高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）で求められているデータサイエンス教育の要素を探究活動に導入する必要がある。
方 策	①教員研修の充実により、これまで以上に生徒の成長を促すことができるよう、教員の指導力を向上させる。 ②2 学年の探究活動に BI ツールを活用したデータサイエンス教育を導入することで、データに基づいて課題解決する能力を養成する。 ③1 年間を通した PBL（美術コース）、職業指導部と連携した探究活動（総合コース情報ビジネス系）を新たに実施する。

重点課題3 学校生活（1 学年）

目 標	高校生活の土台としての基本的生活習慣の確立
現 状	①高校入学から間もない1 年生は、新しい環境への期待と同時に、不安を抱える生徒も少なくない。 ②友人関係の構築や生活リズムの変化に戸惑う姿も見られ、基本的生活習慣が安定しない生徒も一部に見受けられる。
方 策	①学級活動や HR を活用し、挨拶・時間管理・身だしなみ・提出物の期限遵守といった基本的生活習慣の重要性を繰り返し伝える。 ②生徒一人ひとりの不安や課題を早期に把握するため、個人面談を定期的実施することや教員間での情報共有を行い、生徒の様子を把

	握しながら、必要に応じて支援体制を整える。 ③温かい人間関係を土台に、安心して高校生活を送れるよう継続的な声かけとフォローを行う。
--	---

重点課題4 生徒指導

目 標	①公共交通機関利用マナーの向上及び自転車運転ルールの徹底 ②すすんで挨拶ができる生徒の育成 ③地域の状況，社会常識，時代の進展などを踏まえた校則の確立
現 状	①昨年度の自転車の接触事故は 28 件で，事故件数が減少していない。一方，自転車利用時におけるヘルメット着用の努力義務が課されている中で，着用率が極めて低い。 ②浚刺と挨拶をする生徒は多いが，しっかりと挨拶のできない生徒も一定数見られる。 ③今は校則の遵守を徹底し，規範意識の醸成を図る段階にある。少しずつではあるが規範意識が向上しているように感じられる。
方 策	①校前指導を行う。 ②「さわやか運動」では，生徒会，保護者，地域住民と連携した挨拶運動を推し進める。また，乗車指導を行う。 ③学年集会などで公共交通機関利用マナーを訴え意識喚起を行う。 ④交通安全指導の日を設け，通学路に出向き，交通指導を行う。 ⑤生徒会と連絡を密にし，生徒自らが校則と向き合えるよう取り組み，生徒が主体的に校則を守るような土壌作りを行う。ヘルメットの着用についても積極的に推奨したい。

重点課題5 生徒会活動・特別活動

目 標	生徒会活動，学校行事，ボランティア活動等を通して主体的に活動できる生徒を育成する
現 状	①生徒会改革 2 年目を迎え，教員側に各委員会を運営するイメージができ，各委員長，副委員長を中心とした委員会活動が少しずつ動き始めたが，まだ生徒だけで委員会や各行事を十分に切り盛りできるとは言えない。 ②生徒側から現状改善のための提案や要望を出すためには，それぞれの事案について，思い付きではなく，その理由(材料)を集めることが必要である。また，時代に則った内容となっているか，生徒が中心となってコントロールできるかなど，生徒に多角的視点を持たせることが今年度の課題である。
方 策	①各委員会活動や学校行事の際に，関係部署(教員側)と委員会(生徒会執行部)を結び付け，教員と生徒の接点を持たせながら企画・運営にあたることを意識する。

	②各委員会では委員長を中心に、PDCA サイクルを回すことを徹底させる。 ③生徒会活動や学校行事等を、教員主導ではなく生徒会執行部の生徒が中心になって行えるように作り替えていく。
--	---

重点課題6 保健指導

目 標	①生命を尊重し、生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒の育成 ②感染症予防対策の実践力の向上 ③学内の衛生環境の改善
現 状	①スポーツが盛んで、災害発生件数が多く（2024 年度災害発生者数は 110 名、発生率 9.65%），大きな災害も含まれる。 ②防災教育，安全教育，健康教育等，生徒が生涯を通じて健康な生活を送るために必要な教育を受ける機会が少ない。 ③全国的にも様々な学校感染症が流行しており，集団での感染予防対策が必要である。
方 策	①保健委員会の活動を通じて，生徒が主体的に健康を管理できる資質を養うと共に，感染症予防対策の実践や学内の衛生環境の改善を図る。 ②感染症予防や衛生環境の重要性について，保健だよりや委員会活動等を通じて啓発活動を継続する。 ③学校行事やホームルーム等を利用して，性教育，薬物乱用防止教育，防災教育，救命講習等を行う。

重点課題7 進路支援

目 標	①入試改革に伴う入試制度及び大学入学共通テストの情報収集と分析，生徒への発信 ②動画配信等，オンライン教材の活用による生徒の基礎学力の向上 ③多様化する入試情報の迅速かつ正確な発信
現 状	①入試制度の変化が早く，対応が遅れる教員や生徒が見受けられる。 ②それぞれの生徒が目標とする進路先の，選抜方法に合わせた対策や学力向上が求められる。 ③進路目標の決定が遅く情報収集や対応が遅れ，直前になって準備に追われる生徒も多い。早い段階からその学年に応じた指導が必要である。
方 策	①大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し，各学年の担任に校内 LAN などを活用して適宜配信し，情報の共有を図る。 ②各種学校や業者から送付されてきた資料は，校内 LAN を活用し，担任を通じて生徒に配布できる環境を整える。

	③各学年に応じた適切な情報を配信する。 1 学年：2 年次に選択する系の情報に加え，1 年次から受験を意識できるような情報の提供 2 学年：各種学校の設置する学問分野の情報に加え，入試制度に関する情報の提供 3 学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度の状況に関する情報の提供 ④生徒の進路志望調査をもとに，複数の教員が共通理解を持ち，進路実現につながる指導を行う。 ⑤スタディサプリを利用し基礎学力の向上を図る。 ⑥動画配信を利用した大学の講義を見たり，大学の教員と直接話したりすることによって，志望進路の具体化につなげる。 ⑦受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し，情報提供を行う。 ⑧生徒が進路意識や学習に対するモチベーションを高め，早期に進路目標を設定できるように，大手予備校関係者による「進路ガイダンス」や，受験情報提供企業の協力を得て大学・短期大学・専門学校などの担当者より入試に関する情報を直接得る「TOMIICHI 進路フェスティバル」を実施する。
--	---

重点課題 8 情報発信

目 標	①多様な手段で本校の教育活動を広く発信する ②在校生や保護者の視点から，本校の魅力を受験生とその保護者に伝える ③中学校と情報を共有し，信頼関係を築く ④目標を部内で共有し，効果的に生徒を募集する ⑤業務の属人化を防ぎ，効率化を図る
現 状	①学校公式インスタグラムの周知が不十分である。 ②在籍する生徒や卒業生が本校の魅力を発信する機会が少ない。 ③呉西地区の中学校への情報提供や情報収集が不十分である。 ④生徒募集活動が計画的・組織的に行われていない。 ⑤専門業務において担当者の負担が大きい。
方 策	①SNS やホームページを活用し，本校の魅力を効果的に発信する。 ②受験生向けイベントの企画・運営に生徒が積極的に参加する。 ③入試対応マニュアルを作成し，誰でも質問に対応できるようにする。 ④明確な目標を設定し，達成に向けて創意工夫しながら取り組む。 ⑤業務を複数の教職員で分担し，負担を軽減する。 ⑥イベント後にアンケートを実施し，課題を会議で共有・改善する。